

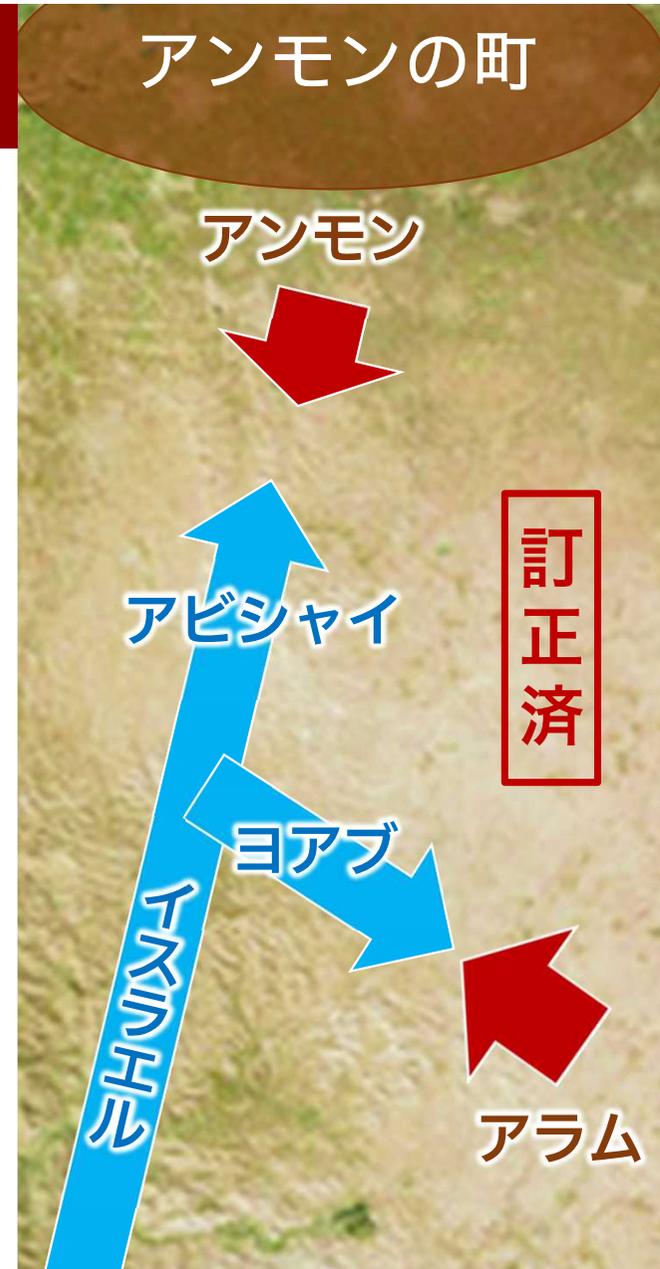
前回の訂正

※図で、ヨアブとアビシャイの位置が逆でした。

【決戦前夜】 II サムエル10:8~10

アンモン人は出て来て、門の入り口で戦いの備えをした。ツォバとレホブのアラム人、およびトブとマアカの人たちは、彼らだけで野にいた。

ヨアブは、自分の前とうしろに戦いの前線があるのを見て、イスラエルの精鋭全員からさらに兵を選び、アラム人に立ち向かう陣備えをし、残りの兵を兄弟アビシャイの手に託して、アンモン人に立ち向かう陣備えをした。



13
ダビデ
聖徒伝 97

「打ち砕かれて 主の前に出よう」

サムエル記第二 11～12章

ダビデの罪

アウトライン

0. イントロダクション

I. ダビデの罪 11章

II. 悔い改めと罪の刈り取り 12章

聖書朗読：詩篇51篇

III. まとめと適用

悔い改めて 喜び 賛美しよう



オリーブ山と神殿の丘



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

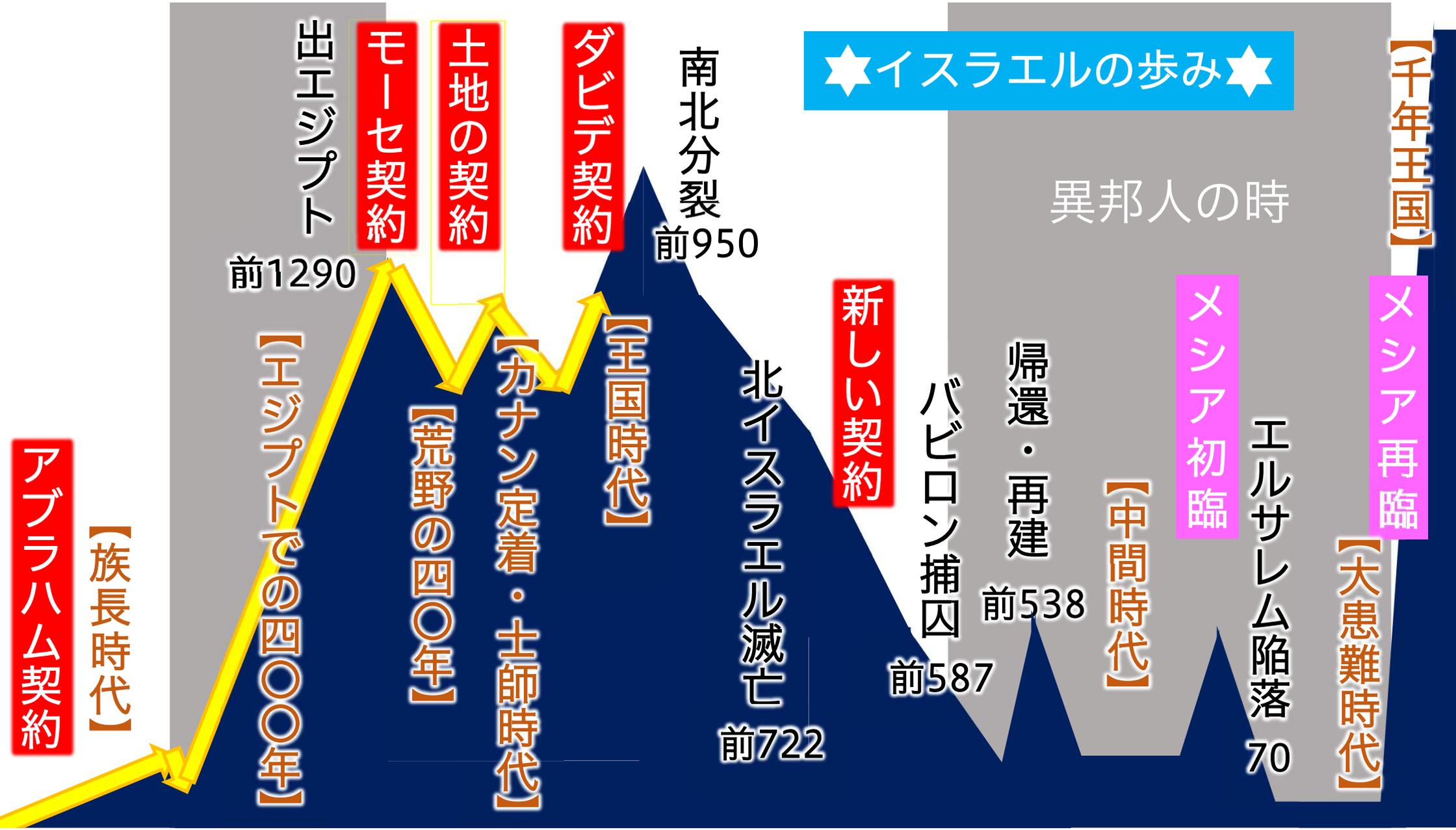
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



出エジプト
前1290

モーセ契約

土地の契約

ダビデ契約

南北分裂
前950

新しい契約

バビロン捕囚
前587

帰還・再建
前538

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落
70

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

北イスラエル滅亡
前722

【中間時代】

【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

【アブラハム契約とは？】

■ 聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【アブラハム契約の三つの約束】

① 子孫の約束 → ダビデ契約に発展

② 土地の約束

③ 祝福(地上の諸民族の祝福)の約束



【ダビデ契約とは？】

- エブス人を討ち、エルサレムを都としたダビデ王が、契約の箱をエルサレムに運び入れた後、神が**一方に約束***されたこと。
→**無条件契約***

- アブラハム契約の「**子孫の約束**」の発展版。

- ユダ族のダビデ王の家系から**メシア**が誕生することが明らかになった。

ダビデの系譜を主は何があっても守られる



サムエル記 第二

ダビデ王の治世の正と負

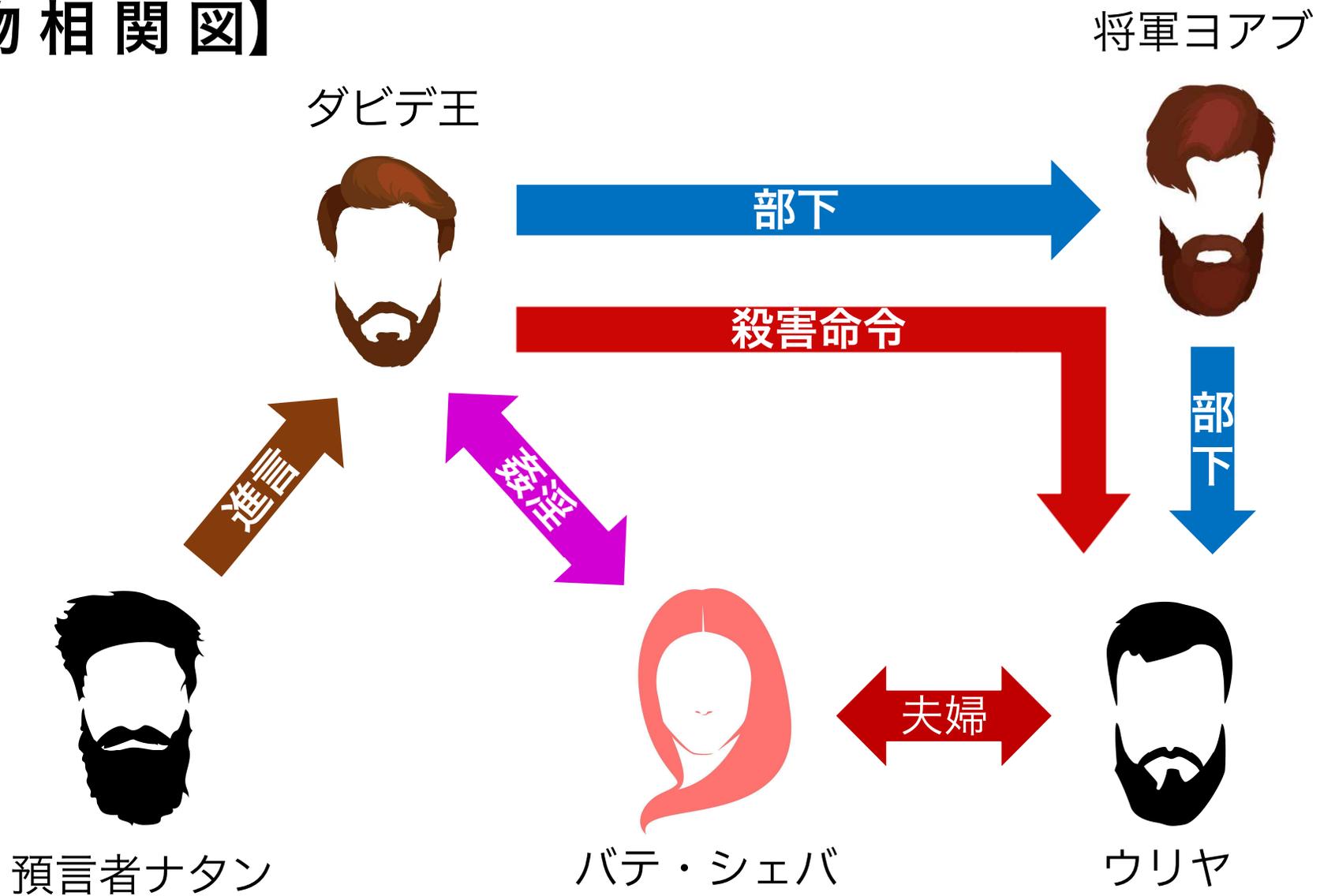
ユダの王	1:1~27	サウルとヨナタンの死
	2:1~4:12	ユダの王に即位
イスラエルの王	5:1~25	エルサレム遷都 全イスラエルの王に
	6:1~25	神の箱が都に上る
	7:1~29	ダビデ契約 の締結
	8:1~9:11	ダビデの治世 領土の拡大・義と憐れみ
失墜する 王の権威	10:1~12:31	アンモンとの戦い ダビデの過ちと悔い改め
	13:1~14:33	悪化する家族問題
	15:1~18:32	アブサロムの謀反 ダビデの都落ち
	19:1~20:26	ダビデの帰還
追記	21:1~22	サウルの氏族の末路・戦士ダビデの引退
	22:1~51	ダビデの歌
	23:1~39	ダビデの遺言 勇士たちの記録
	24:1~25	人口調査 ダビデの罪と罰

【ダビデの足取り】 サムエル記一11～二10章

- 無実の罪による逃亡生活は、サウル王の死で終わった。
- イスラエルの王となったダビデは、エルサレムを勝ち取り、都とし、神の箱を担ぎ上げた。
- 神は、ダビデを祝福し、ダビデの王家を永遠に守り、導くと約束された。
- ダビデは、イスラエルの長年の仇敵だった周辺諸国に次々と勝利を収めた。最後に残ったアンモンに勝利するのも、もはや時間の問題だった。



【人物相関図】





I. ダビデの罪

サムエルII 11章

エルサレムの夕景

【終わりの見えた戦い】 II サムエル11:1

年が改まり、王たちが出陣する時期*になった。ダビデは、ヨアブと自分の家来たちとイスラエル全軍を送った。彼らは**アンモン人**を打ち負かし、ラバを包囲した。しかし、ダビデはエルサレムにとどまっていた。

*3～4月頃が新年。雨期の終わり、乾期の始め。

収穫期の後、乾期に戦いが行われたのだろう。

■ 周辺諸国の最後の敵、アンモンとの戦いも終盤。

勝利は目前で、ダビデは都にとどまっていた。



【バテ・シェバ】 II サムエル11:2~3

ある**夕暮れ時**、ダビデが床から起き上がり、王宮の屋上を歩いていると、一人の女が、からだを洗っているのが屋上から見えた。その女は非常に美しかった。ダビデは人を送ってその女について調べさせたところ、「あれは**ヒッタイト人*ウリヤ***の妻で、**エリアム***の娘**バテ・シェバ***です」との報告を受けた。

*南部のユダ族の地の先住の民。

*“主は私の光”の意。異邦人の改宗者。

*“民の神”“神は血族” * “誓いによる娘”



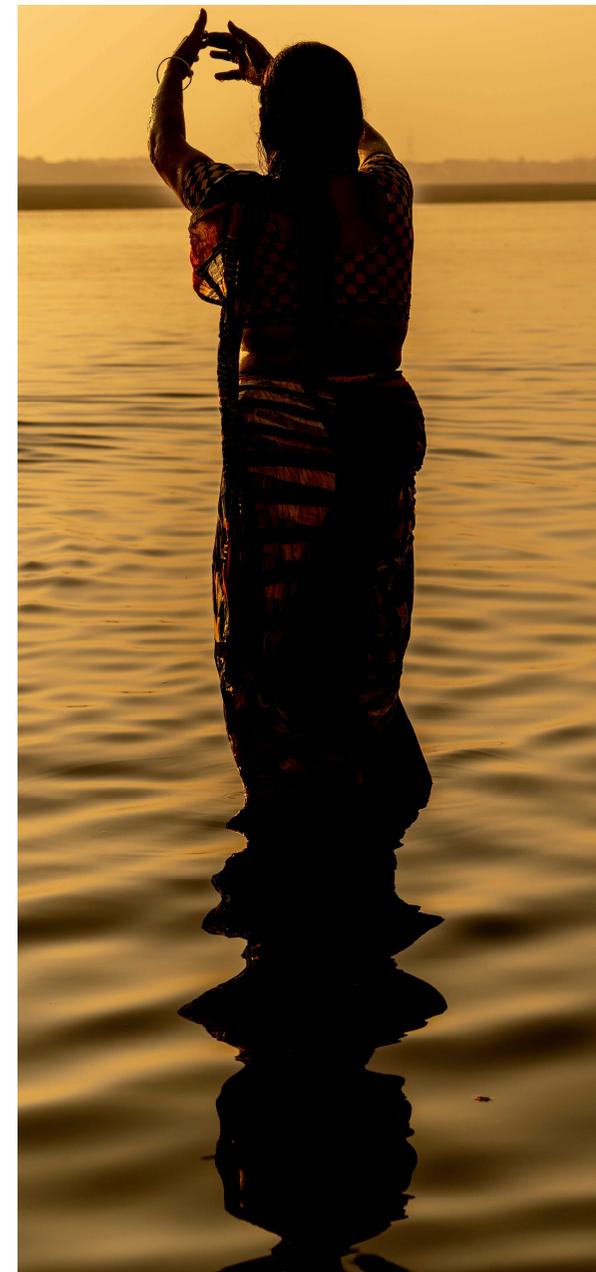
【ダビデの過ち】 II サムエル11:4～5

ダビデは使いの者を送って、その女を召し入れた。
彼女が彼のところに来たので、彼は彼女と寝た
——彼女は月のものの汚れから身を聖別*していた
——それから彼女は自分の家に帰った。

女は身ごもった。それで彼女はダビデに人を送って告げた。「私は子を宿しました。」

*月のもののきよめの規定(レビ記15:19～28)

➡きよめの儀式の沐浴をしていたバテ・シェバ



【ウリヤを招くダビデ】 Ⅱサムエル11:6～7

ダビデはヨアブのところに人を遣わして、「ヒッタイト人ウリヤを私のところに送れ」と言った。ヨアブはウリヤをダビデのところに送った。ウリヤがやって来ると、ダビデは、ヨアブは無事であるか、また兵たちは無事か、さらに戦いはうまくいっているかと尋ねた。

- ウリヤは三十勇士の一人(サムⅡ23:39)。
荒野時代からのダビデの忠実な兵士。
➡ 功績を称えて王が招いても不自然でない。

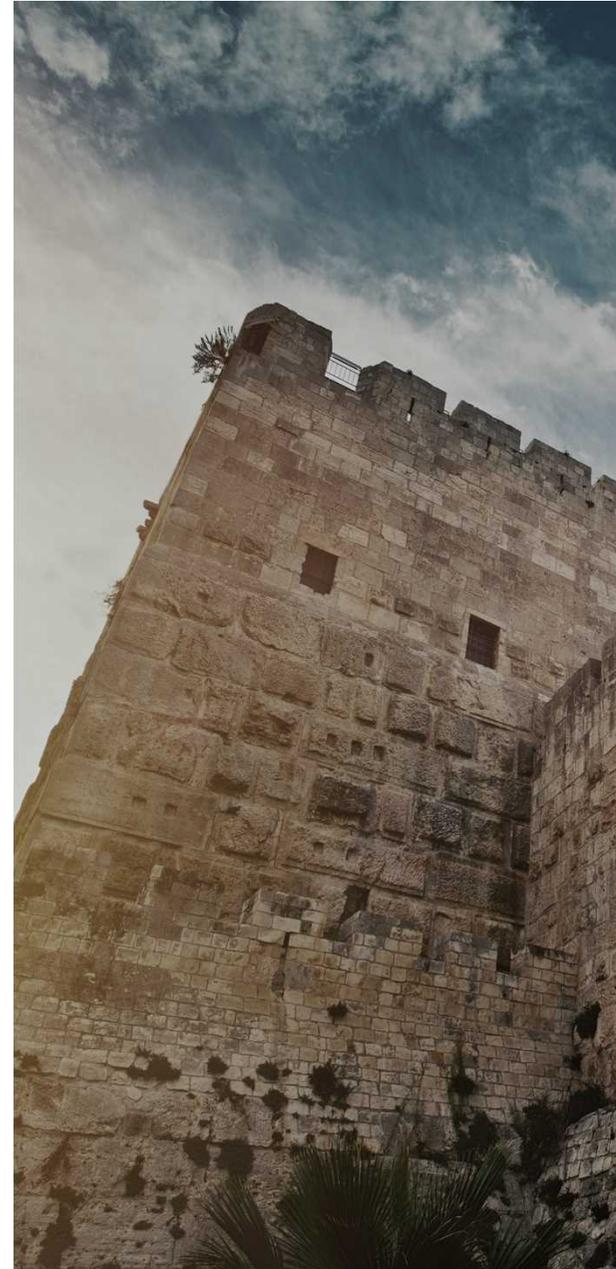


【ダビデの思惑】 II サムエル11:8～9

ダビデはウリヤに言った。「家に帰って、足を洗いなさい*。」ウリヤが王宮から出て行くと、王からの贈り物が彼の後に続いた。しかしウリヤは、王宮の門のあたりで、自分の主君の家来たちみなと一緒に眠り、自分の家に帰らなかった。

ダビデに「ウリヤは自分の家に帰らなかった」という知らせがあった。ダビデはウリヤに言った。「あなたは遠征して来たのではないか。なぜ、自分の家に帰らなかったのか。」

*旅の疲れを癒やして休みなさい。 ➡ 労いの挨拶。



【ウリヤの忠誠】 II サムエル11:11~12

ウリヤはダビデに言った。「神の箱も、イスラエルも、ユダも仮庵に住み、私の主人ヨアブも、私の主人の家来たちも戦場で野営しています。それなのに、私が家に帰り、食べたり飲んだりして、妻と寝るということができるでしょうか。あなたの前に、あなたのたましいの前に誓います。私は決してそのようなことをいたしません。」

ダビデはウリヤに言った。「今日もここにとどまるがよい。明日になったら、あなたを送り出そう。」ウリヤはその日と翌日、エルサレムにとどまることになった。



【ダビデの命令】 II サムエル11:13~15

ダビデは彼を招いた。彼はダビデの前で食べて飲んだ。ダビデは彼を酔わせた。夕方、ウリヤは出て行って、自分の主君の家来たちと一緒に自分の寝床で寝た。しかし、自分の家には下って行かなかった。

朝になって、ダビデはヨアブに手紙を書き、それをウリヤに託して送った。

彼は、その手紙に次のように書いた。「ウリヤを激戦の真っ正面に出し、彼を残してあなたがたは退き、彼が討たれて死ぬようにせよ。」



【ウリヤの死】 II サムエル11:16~18

ヨアブは町を見張っていて、その町の方がある者たちがいると分かっている場所に、ウリヤを配置した。その町の者が出て来てヨアブと戦った。兵のうちダビデの家来たちが倒れ、ヒッタイト人ウリヤも死んだ。ヨアブは人を遣わして、戦いの一部始終をダビデに報告した。

- ダビデの命令は、“ウリヤだけ”を残して。殺意がばれないよう周到に実行したヨアブ。
➔ 他の兵たちの犠牲も厭わない冷酷さ。



悪を引き出した
ダビデの悪意

【ヨアブの命令】 II サムエル11:19～21

そのとき、ヨアブは使者に命じて言った。「戦いの一部始終を王に報告し終えたとき、もし王が憤って、おまえに、『どうして、おまえたちはそんなに町に近づいて戦ったのか。城壁の上から彼らが射かけてくるのを知らなかったのか。』

エルベシェテの子アビメレクを打ち殺したのは、だれであったか。一人の女が城壁の上からひき白の上石を投げつけて、テベツで彼を殺したのではなかったか。どうして、そんなに城壁に近づいたのか』と言われたら、『あなたの家来、ヒツタイト人ウリヤも死にました』と言いなさい。」



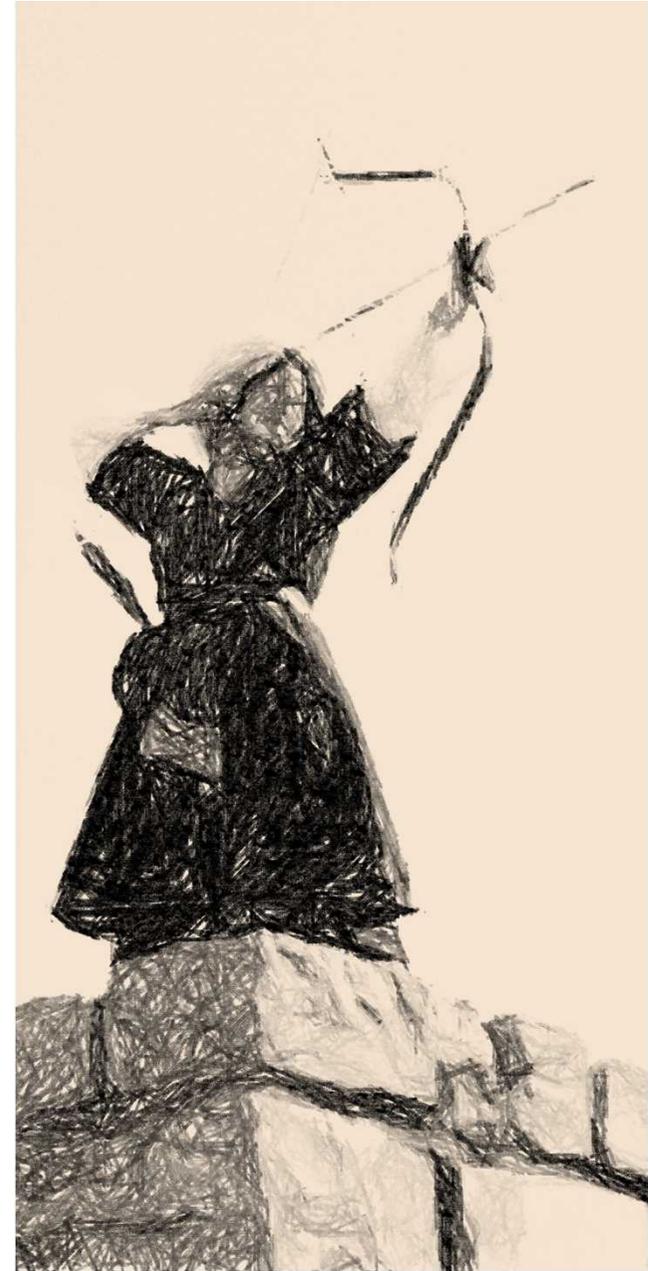
士師記9:53

【使者の報告】 II サムエル11:22～24

使者は出かけて行き、ダビデのところに来て、ヨアブの伝言をすべて伝えた。

使者はダビデに言った。「敵は私たちより優勢で、私たちに向かって野に出て来ましたが、私たちは門の入り口まで彼らを攻めて行きました。

城壁の上から射手たちがあなたの家来たちに矢を射かけ、王の家来たちが死に、あなたの家来、ヒツタイト人ウリヤも死にました。」



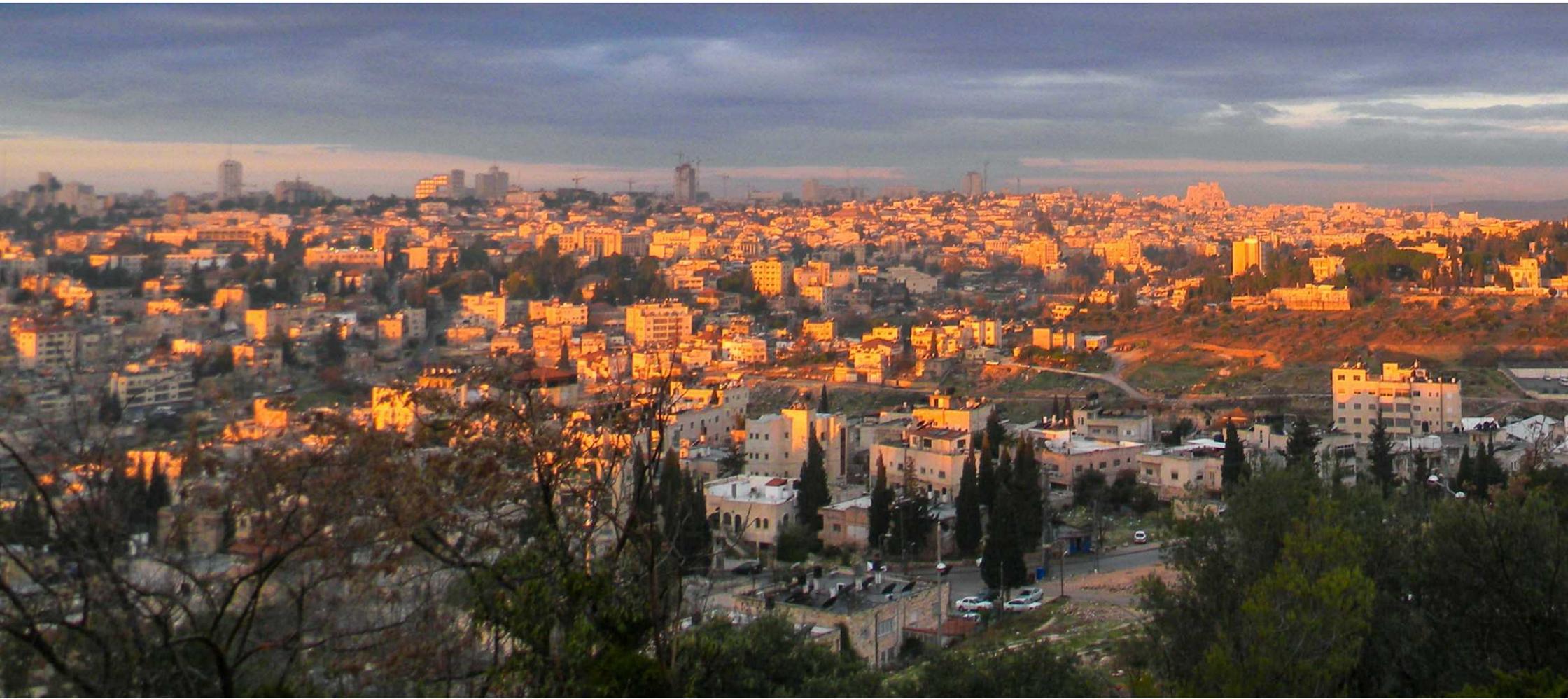
【ダビデの返答】 II サムエル11:25～27

ダビデは使者に言った。「あなたはヨアブにこう言いなさい。『このことに心を痛めるな。剣はこちらの者も、あちらの者も食い尽くすものだ。あなたは町をいっそう激しく攻撃し、それを全滅させよ。』あなたは彼を力づけなさい。」

ウリヤの妻は、自分の夫ウリヤが死んだことを聞き、自分の主人のために悼み悲しんだ。

喪が明けると、ダビデは人を遣わして、彼女を自分の家に迎え入れた。彼女は彼の妻となり、彼のために息子を産んだ。しかし、ダビデが行ったことは【主】のみこころを損なった。





II. 悔い改めと罪の刈り取り

サムエル記 II 12章

エルサレムの朝焼け

【預言者ナタンのたとえ話】 Ⅱ サムエル12:1

【主】はナタンをダビデのところに遣わされた。
ナタンはダビデのところに来て言った。

「ある町に二人の人がいました。一人は富んでいる人、もう一人は貧しい人でした。富んでいる人には、とても多くの羊と牛の群れがいましたが、貧しい人は、自分で買ってきて育てた一匹の小さな雌の子羊のほかは、何も持っていませんでした。子羊は彼とその子どもたちと一緒に暮らし、彼と同じ食べ物を食べ、同じ杯から飲み、彼の懐で休み、まるで彼の娘のようでした。」



【怒りを燃やすダビデ】 II サムエル12:4~6

「一人の旅人が、富んでいる人のところにやって来ました。彼は、自分のところに来た旅人のために自分の羊や牛の群れから取って調理するのを惜しみ、貧しい人の雌の子羊を奪い取り、自分のところに来た人のために調理しました。」

ダビデは、その男に対して激しい怒りを燃やし、ナタンに言った。「【主】は生きておられる。そんなことをした男は死に値する。その男は、あわれみの心もなく、そんなことをしたのだから、その雌の子羊を四倍にして償わなければならない*。」

*家畜の故意の損害に対する賠償規定(出22:1)



王としての
ダビデの裁定

【神の叱責】 Ⅱサムエル12:7

ナタンはダビデに言った。「**あなたがその男です。**イスラエルの神、【主】はこう言われます。『わたしはあなたに油を注いで、イスラエルの王とした。また、わたしはサウルの手からあなたを救い出した。

さらに、あなたの主君の家を与え、あなたの主君の妻たちをあなたの懐に渡し、イスラエルとユダの家も与えた。それでも少ないというのなら、あなたにもっと多くのものを増し加えたであろう。

どうして、あなたは【主】のことばを蔑み、わたしの目に悪であることを行ったのか。あなたはヒッタイト人ウリヤを剣で殺し、彼の妻を奪って自分の妻にした。あなたが彼をアンモン人の剣で殺したのだ。



ダビデの罪の本質

【主の宣告】 Ⅱ サムエル12:10~12

今や剣は、とこしえまでもあなたの家から離れない。あなたがわたしを蔑み、ヒッタイト人ウリヤの妻を奪い取り、自分の妻にしたからだ。』

【主】はこう言われる。『見よ、わたしはあなたの家の中から、あなたの上にわざわいを引き起こす。あなたの妻たちをあなたの目の前で奪い取り、あなたの隣人に与える。彼は、白昼公然と、あなたの妻たちと寝るようになる。』

あなたは隠れてそれをしたが、わたしはイスラエル全体の前で、白日のもとで、このことを行う。』」

※後に、愛息アブサロムに王の権威を脅かされる。



【神の赦しと罰】 IIサムエル12:13~14

ダビデはナタンに言った。「私は【主】の前に罪ある者です。」ナタンはダビデに言った。

「【主】も、あなたの罪を取り去ってくださった。あなたは死なない。

しかし、あなたはこのことによって、【主】の敵に大いに侮りの心を起こさせたので、あなたに生まれる息子は必ず死ぬ。」

■主の前に悔い改めたダビデを、

主は、ダビデ契約の約束のゆえに赦された。

➡深い憐れみの一方、厳格な罪の刈り取りも。



【赤子の病】 II サムエル12:15～17

ナタンは自分の家へ帰って行った。【主】は、ウリヤの妻がダビデに産んだ子を打たれた*ので、その子は病気になった。

ダビデはその子のために神に願い求めた。ダビデは断食をして引きこもり、一晩中、地に伏していた。彼の家の長老たちは彼のそばに立って、彼を地から起こそうとしたが、ダビデは起きようともせず、彼らと一緒に食事をとろうともしなかった。

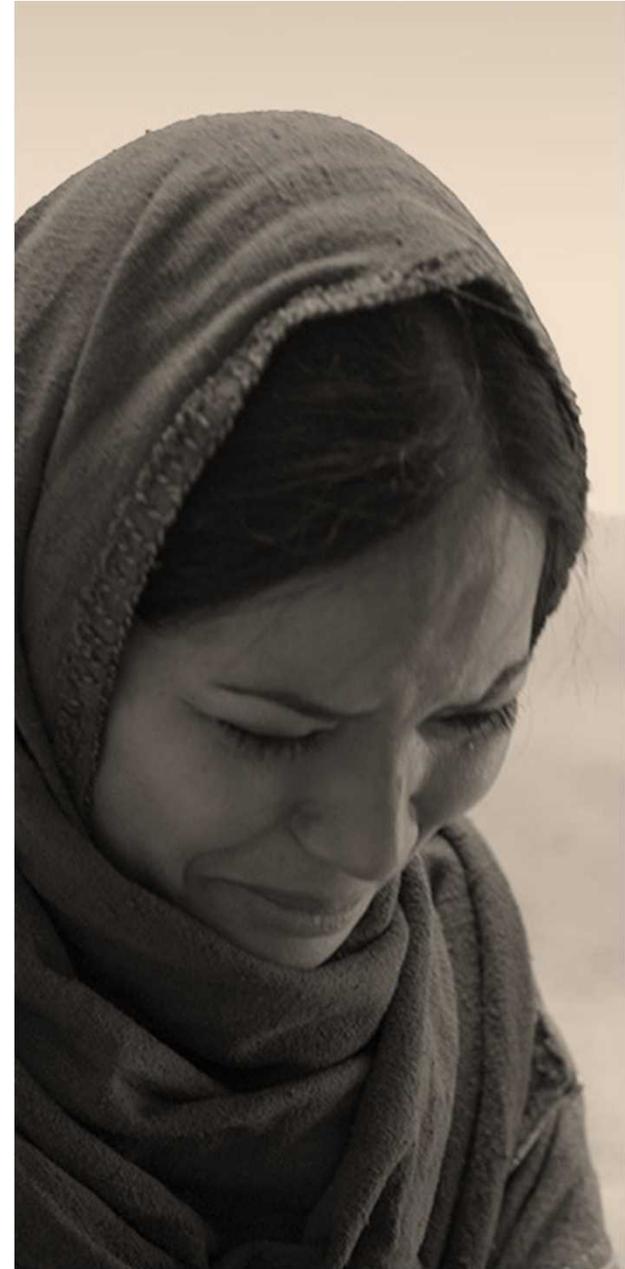
*命を与え、取り去る権利は、主だけのもの。



【赤子の死】 II サムエル12:18~19

七日目にその子は死んだ。ダビデの家来たちは、その子が死んだことをダビデに告げるのを恐れた。彼らは、「聞きなさい。王はあの子が活着ているとき、われわれが話しても、言うことを聞いてくださらなかった。どうして、あの子どもが死んだことを王に言えるだろうか。王は何か悪いことをされるかもしれない」と言ったのである。

ダビデは、家来たちが小声で話し合っているのを見て、子が死んだことを悟った。ダビデは家来たちに言った。「あの子は死んだのか。」彼らは言った。「亡くなられました。」



【食事をとるダビデ】 Ⅱ サムエル12:20～21

ダビデは地から起き上がり、からだを洗って身に油を塗り、衣を替えて【主】の家に入り、礼拝をした。そして自分の家に帰り、食事の用意をさせて食事をとった。

家来たちは彼に言った。「あなたのなさったこのことは、いったいどういうことですか。お子様が生きておられるときは断食をして泣かれたのに、お子様が亡くなされると、起き上がり食事をされるとは。」



【主の御手に委ねて】 Ⅱ サムエル12:22～23

ダビデは言った。「あの子がまだ生きていたときに私が断食をして泣いたのは、もしかすると【主】が私をあわれんでくださり、あの子が生きるかもしれない、と思ったからだ。

しかし今、あの子は死んでしまった。私はなぜ、断食をしなければならないのか。あの子をもう一度、呼び戻せるだろうか。私があの子のところに行くことはあっても、あの子は私のところに戻っては来ない。」

■ 幼子の死後の行き先は、神の憐れみの内に。



【ソロモンの誕生】 II サムエル12:24～25

ダビデは妻バテ・シェバを慰め、彼女のところに入り、彼女と寝た。彼女は男の子を産み、彼はその名を**ソロモン***と名づけた。【主】は彼を愛されたので、預言者ナタンを遣わし、【主】のために、その名を**エディデヤ***と名づけさせた。

*“平和な”“平和を好む者” ➡ 神の平和、慰め。

*“主に愛される者” ➡ 神の愛、憐れみ。

■ ソロモンが、ダビデの世継ぎ、次の王に!!

神殿を建設し、主の平和と繁栄を享受!!



【アンモンへの勝利】 II サムエル12:26～28

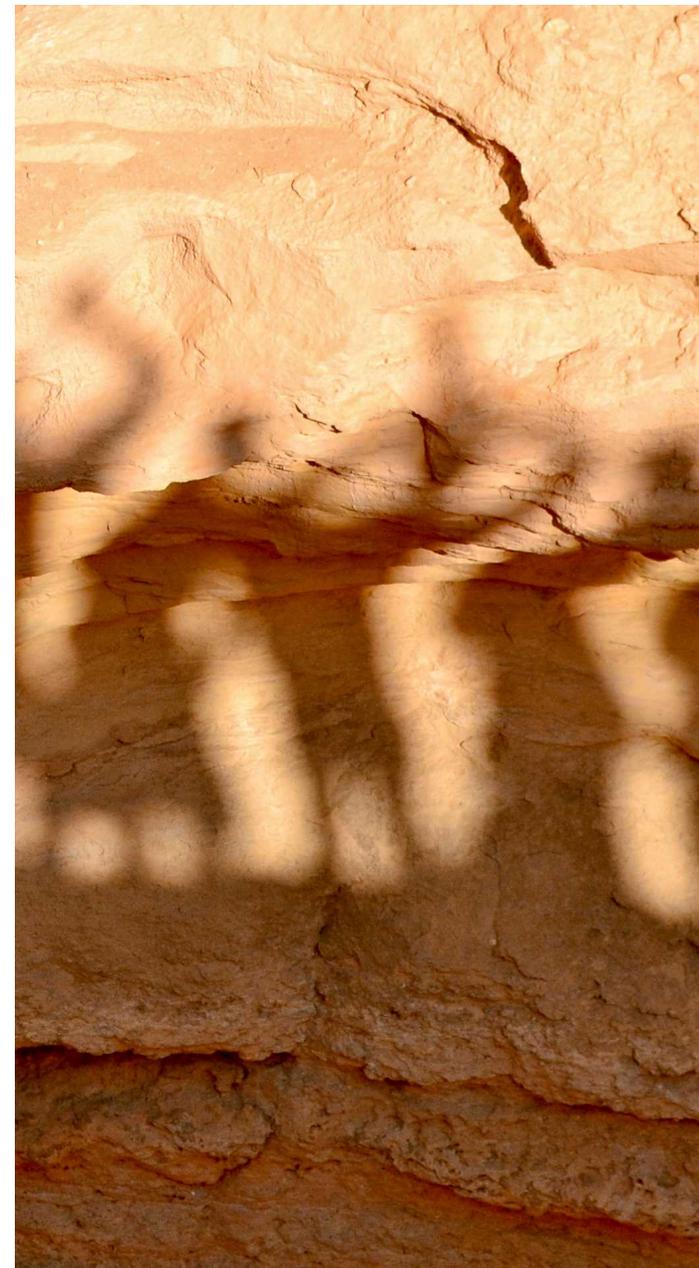
さて、ヨアブはアンモン人のラバと戦い、この王の町を攻め取った。

ヨアブはダビデに使者を遣わして言った。「私はラバと戦って、**水の町**を攻め取りました*。

今、兵の残りの者たちを集めて、この町に対して陣を敷き、あなたがこれを攻め取ってください。私がこの町を取り、この町に私の名がつけられるといけませんから。」

***町の水源**を断った。➡実質的に勝敗は決した。

■**ダビデ王の入城**が、勝利宣言となる。

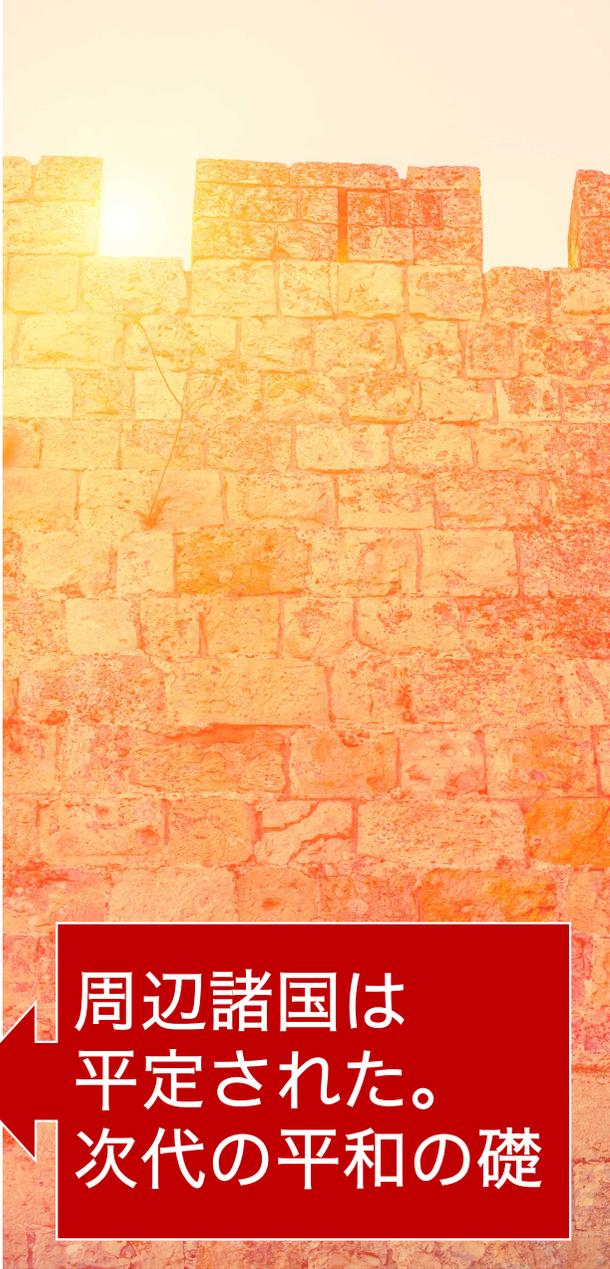


【アンモンへの勝利】 II サムエル12:29～31

ダビデはすべての兵を集めてラバに進んで行き、これと戦って攻め取った。

彼は、彼らの王の冠をその頭から奪い取った。その重さは金一タラント(30kg)で、宝石がはめ込まれていた。その冠はダビデの頭に置かれた。彼は、その町から非常に多くの分捕り物を持ち去った。

彼はその町にいた人々を連れ出して、石のこぎりや、鉄のつるはし、鉄の斧を使う仕事に就かせ、また、連れて行って、れんが作りの仕事をさせた。ダビデはアンモン人のすべての町に対して、いつもこのようにしていた。ダビデとすべての兵はエルサレムに帰った。



周辺諸国は
平定された。
次代の平和の礎



聖書朗読 詩篇51篇

ダビデの賛歌

【詩篇51篇・構成】 ダビデの罪の告白と神への賛歌

① 罪の告白(1～5節)

神の前に**自らの犯した罪と生まれながらの罪**を認め、救いを求める。

② きよめと贖いの願い(6～9節)

神の定めた**律法**の規定に訴え、罪のきよめを願う。

③ 聖霊の永遠の内住の求め(10～13節)

聖霊が永遠に内に住み、主に仕える喜びで満たされるよう求める。

④ 打ち砕かれて神の国を求める(14～19節)

打ち砕かれた自分の霊を献げるなら、永遠の**神の国**に入れられる。

真実のいけにえが献げられる**神の都エルサレム**が歌われる。

【詩篇51篇・用語解説】

■ **恵み** (1節) … 訴えの根拠は、神の一方的な約束に基づく恵み。

■ **ヒソブ** (7節) … きよめの儀式に用いられた葉 (レビ記14章)。

■ **揺るがない霊、聖なる御霊、仕えることを喜ぶ霊** (10～12節)

… 神の霊・聖霊。律法の時代、聖霊に満たされるのは一時的。

エレミヤを通して約束された **新しい契約** が、メシアを通して施行。

今の **教会時代** には、福音を信じた者すべてに **聖霊** が住まわれる。

■ **シオン、エルサレム** (18節)

… メシアである主イエスが再臨された後、**千年王国** において、

エルサレムは再建され、**真実の犠牲のささげ物** がなされる。

聖書朗読 詩篇51篇

指揮者のために。ダビデの賛歌。
ダビデがバテ・シェバと通じた後、
預言者ナタンが彼のもとに来たときに。



詩篇51篇

<51> 指揮者のために。ダビデの賛歌。ダビデがバテ・シェバと通じた後、預言者ナタンが彼のもとに来たときに。

51:1 神よ私をあわれんでください。あなたの恵みにしたがって。私の背きをぬぐい去ってください。あなたの豊かなあわれみによって。

51:2 私の咎を私からすっかり洗い去り私の罪から私をきよめてください。

詩篇51篇

51:3 まことに私は自分の背きを知っています。私の罪はいつも私の目の前にあります。

51:4 私はあなたにただあなたの前に罪ある者です。私はあなたの目に悪であることを行いました。ですからあなたが宣告するときあなたは正しくさばくときあなたは清くあられます。

51:5 ご覧ください。私は咎ある者として生まれ罪ある者として母は私を身ごもりました。

詩篇51篇

51:6 確かにあなたは心のうちの真実を喜ばれます。どうか私の心の奥に知恵を教えてください。

51:7 ヒソプで私の罪を除いてください。そうすれば私はきよくなります。私を洗ってください。そうすれば私は雪よりも白くなります。

51:8 楽しみと喜びの声を聞かせてください。そうすればあなたが砕かれた骨が喜びます。

51:9 御顔を私の罪から隠し私の咎をすべてぬぐい去ってください。

詩篇51篇

51:10 神よ私にきよい心を造り揺るがない霊を私のうちに新しくしてください。

51:11 私をあなたの御前から投げ捨てずあなたの聖なる御霊を私から取り去らないでください。

51:12 あなたの救いの喜びを私に戻し仕えることを喜ぶ霊で私を支えてください。

51:13 私は背く者たちにあなたの道を教えます。罪人たちはあなたのもとに帰るでしょう。

詩篇51篇

51:14 神よ私の救いの神よ血の罪から私を救い出してください。私の舌はあなたの義を高らかに歌います。

51:15 主よ私の唇を開いてください。私の口はあなたの誉れを告げ知らせます。

51:16 まことに私が供えてもあなたはいけにえを喜ばれず全焼のさげ物を望まれません。

詩篇51篇

51:17 神へのいけにえは砕かれた霊。打たれ砕かれた心。神よあなたはそれを蔑まれません。

51:18 どうかご恩寵によりシオンにいつくしみを施しエルサレムの城壁を築き直してください。

51:19 そのときあなたは義のいけにえを焼き尽くされる全焼のささげ物を喜ばれます。そのとき雄牛があなたの祭壇に献げられます。



IV. まとめと適用 悔い改めて 喜び 賛美しよう



エルサレムの朝

【ダビデが罪に陥り、大罪に至った過程】

- 周辺諸国との一連の戦いへの勝利が目前。 → 気の緩み。
- 夕刻の礼拝の時刻に、屋上を歩いていた。 → 信仰の停滞。
- 沐浴する女を目撃。 → 見た。 → 凝視した。
- 女は誰か？ → 調べさせた。 → 呼び出した。 → 関係を持った。

※踏みとどまるチャンスは、どの段階にも確かにあった!!

大罪は偶発的には起きない。重ね進め選んだ小さな罪の結果!!

【悔い改めを拒み、さらに大罪を重ねたダビデ】

■ 姦淫による懐妊。ダビデは自分の罪を承知していた。→悔い改めず

■ 偽装工作も、信仰者ウリヤの忠実さゆえに途絶。→悔い改めず

■ 部下の手を汚させ、神の忠実なしもベウリヤを殺害。→悔い改めず

■ ナタンのたとえに激怒。→極まった自分の罪への鈍感さ、頑なさ。

※罪を重ねるほどに、心は頑なになり、さらなる罪を重ねていく。

ヤコブの手紙1:13~15

だれでも誘惑されているとき、神に誘惑されていると言っ
てはいけません。神は悪に誘惑されることのない方であり、ご
自分でだれかを誘惑することはありません。

人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ、誘われる
からです。

そして、欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。

【悔い改めの瞬間を逃すな!!】

- 憐れみの主は、何度も何度も悔い改めの機会を与えられる。
- 罪に気づかされた瞬間が、悔い改めの時。
「あなたがその男だ」 → **気づかされた瞬間**、ダビデは悔い改めた。
- ダビデが拾い上げたのは、最後のチャンスだったかもしれない。
重ねた罪の重さにも関わらず、悔い改めて、赦しを得た。
- 神が一方向的に約束されたダビデ契約が、悔い改めたダビデを救った。
ダビデは、示された主の約束を信頼して、永遠の救いを得ていた。

【信仰者にもものしかかる罪の刈り取りの責任の重さ】

- 主の約束を信じ、**永遠の王座**が約束されていたダビデが罪を犯した。
クリスチャンも、大きな罪を犯しうると覚えよう。
- ダビデのように、神の約束のゆえ、救いが取り去られることはない。
悔い改めて、赦されない罪はない。
- しかし、世における**罪の刈り取り**は、信仰者ほど厳密にある。
生きながら、地獄の苦しみを味わわされることさえもあるだろう。
ダビデのように。機会を逃さず、即、悔い改める信仰を求めよう。

【ダビデの罪が信じられない？ 理解しがたい王の権威】

- 王は絶対の存在。王の命令を拒めば殺されても文句は言えない。
- どんな美女も物も土地も、命令一つで手に入るのが王。
自分が王の地位についたなら、罪を犯さずにいられるだろうか？
例) 思わずクリックしてしまったという経験はない？
→ 自分は大丈夫というのは、傲慢か。信仰的に未熟なだけ。
- 絶対的な権力を手に入れて、罪を犯さない人いない。
権力者の権限を抑制するシステムは、罪から人が学んだ知恵。

罪を犯さなかった王は、史上唯一、メシアなる主イエスだけ!!

【権力の被害の立場から考えよう】

- バテ・シェバ、ヨアブの罪は、ダビデの重い罪とは比較にならない。王の命令を拒むには、命がけの決意が必要だから。
- 一方で、そのような人間の王を求めたのは、イスラエルの民自身。ダビデの罪の責任をイスラエルの一人一人の民も負っている。
- 地域教会にはいつでも罪が生じる。人は簡単に罪を犯す。組織や他者の不信仰を持って、自分の不信仰の理由にはできない。
- 選び、支えた私にも責任がある。一方的な被害者の立場から抜け出て、自らの責任を認識していくときに、「被害者」の束縛からの自由を得る。

ヨハネの手紙第一1:8~10

もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。

もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

もし罪を犯したことがないと言うなら、私たちは神を偽り者とすることになり、私たちのうちに神のことばはありません。

【主の御前で、はかりしれない恵みを味わい知るためにこそ】

- 他者の大きな罪が罨となることがある。自分とは無関係だと言い、自分の罪をごまかす理由に他者の罪を持ち出す、私たちの罪がある。
- 理不尽な他者の罪の犠牲となることもある。全能の主に委ねよう。主の前に問われ、悔い改めるべきは、常に私自身の罪だから。
- 主の救いの約束は変わらず、悔い改めて赦されない罪はない。憐れみの主に信頼して、罪の刈り取りは甘んじて受けよう。

罪告白し、悔い改め、心からの喜びに満ちた賛歌をささげよう

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

主の約束(やくそく)のゆえに、わたしの救(すく)いは 取(とり)り去(さ)られることはありません。

主の前に悔(く)い改(あらた)めて、ゆるされない罪はありません。

わたしの罪を告白(こくはく)します。

どうかこの身をきよめ 主の愛で満たしてください。

心の妨(さまた)げを打ち砕(くだ)き、主を讃(たた)えるよろこびで、あふれるほどに満たしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」